

第二学年進路だより

春日部市立東中学校

進路について一緒に考えてください。NO. 2

親と子供の意見が違うときは

(1) こんなところで意見が分かれる

進路をめぐる問題は、親にとっても子供にとっても深刻で切実なものです。したがって親と子供の意見が食い違うことがしばしば出てきます。その内容はさまざまですが、主に次のようなことが多いようです。

- ・親は進学させたい。子供は就職か専門学校、各種学校進学を希望している。
- ・親は公立高校を希望、子供は私立高校を希望している。(またはその逆)
- ・普通科か専門学科を希望しているかでわかれる。
- ・大学進学に実績のある高校か、身近な地域の高校を希望するのか。
- ・男女共学高校か、別学高校を希望するのか。
- ・子供が親の意見を聞かずに自分だけで決めてしまう。
- ・親が自分の考えだけで決めてしまう。

(2) 意見が合わないのは当たり前

このような進路をめぐる親子間の意見の食い違いはどうして起きてしまうのでしょうか。基本的には進路を人生設計の中にどう位置付けているか、そして

進路に何を期待しているのかの違いがその原因のようです。この違いは、いわゆる「世代の違い」「人生経験の差異」に基づくもののようです。

親は実社会の現実や自分自身の経験を踏まえて子供たちの進路を考え、期待します。それはややもすると、子供にとっては厳しすぎる判断であったり、過度の期待であったりします。

一方、子供は体こそ大きいのですが、まだ13～14歳であり、目の前の興味・関心、友人関係のみに引かれてしまって、自分自身がこれから進んでいく将来の生活に対しては、実感をもって考えることができず、ただ単純に考え発言してしまうことが多く見受けられます。このことが親の目から見れば、いかにも“世間知らず”で甘く危なっかしく見えるのだと思います。

こうしてみると、進路をめぐる意見の不一致は当たり前のことであり、どの家庭でも起こり得ることなのです。

(3) 進路についての話し合いを大切に

では、親子の意見の不一致や対立を解消するために、親は何をしたらよいでしょうか。結論から言えば、話し合うこと以外に解決策はないと思います。

そこで話し合いを進めていくうえでの留意点を幾つか挙げてみましょう。

- ・安心して、くつろいだ気分で話し合える機会と場をつくるようにする。
- ・親はまず、聞き役にまわり、子供が「自分の考えが親に伝わった。」と実感できるように十分聞いてあげることです。その際、そのように考えている理由などについても聞き出すようにしてください。

- ・次に子供の意見を聞いたうえで、親の考えをはっきりと、わかりやすく述べてください。自分自身の体験を交えながら話してみるとよいと思います。

その結果、子供自身が自分の甘さなどに気づき、自分自身のことを理解していなかったことに自然に気がつくようにしたいものです。一方的な親の押し付けととられないようにすることが大切です。

- ・よその家の子供や兄弟を引き合いに出すのはよくありません。子供が一番嫌がることで、反発してしまいます。